

海外産はオーガニックの有無が選択の指標に



世界市場は、オーガニック食品に対する需要が高まっています。特に、米国やヨーロッパでは、健康志向の消費者が増加する一方で、農薬や化学肥料による農作物の栽培が問題視されています。日本でも、オーガニック食品の認証制度が整備され、多くの企業が認証を受けている状況です。

一方で、海外産のオーガニック食品は、依然として輸入品として扱われています。輸入品の中には、農薬や化学肥料を使用して栽培されたものも含まれる場合があります。そのため、消費者は、輸入品の有機認証を確認する必要がある場合があります。また、輸入品の有機認証は、輸入元の規制によります。たとえば、EUでは、有機農業の基準が厳しく定められていますが、日本では、より緩和的な基準が採用されています。

7/29・30「オーガニックスタイルエキスポ」開催 業界関係者商談会も予定



Organic Forum Japan
Organic Lifestyle Expo
7月29日㈯・30㈰ 国立競技場

このイベントでは、オーガニック生活スタイルに関する最新情報を発信するため、業界関係者商談会も予定されています。また、オーガニックスタイルエキスポでは、農産物や畜産物、加工品など、様々な商品が展示される予定です。この機会に、オーガニック食品の魅力を体験してみてはいかがでしょうか。

「オーガニック」

消費する「オーガニック」が、今注目されている理由は、その安全性と持続可能性です。農薬や化学肥料などに頼らず、自然の力を生かした農産物や畜産物、またそれらを使った加工品であるオーガニック食品。消費者も安心して購入できるよう、多くの企業が取り組んでいます。また、オーガニック食品は、多くの場合、農地の土壌や水の質を改善する効果があるとされています。そのため、オーガニック食品は、健康的な食生活を実現するための重要な一環です。